

「コミュニティとは何か」 「コミュニティ研究のすすめ」

中川雄一郎
協同総研理事長
明治大学教授

私事で申し訳ないが、今年4月に大月書店から『社会的企業とコミュニティの再生』と題する拙著を上梓したので、常日頃ご指導いただいている方々やお世話になっている方々に拙著をお送りした。そしてその後有難いことにさまざまなご意見、ご批判、それに励ましの言葉をいただいた。それらのなかの一つとして白井厚先生より、「コミュニティという語は、単なる地域社会からEUやゲマインシャフトや協同体に至るまで多様な意味があり、村落やコミュニオンやコミュニズムとも密接にかかわるので、その『再生』とは何か、単なる地域社会の活性化とはどう違うのか、その辺はまた機会があれば教えてください」とのご意見をいただくことができた。

もっともなご意見だと思う。拙著では「コミュニティ」について定義らしいものにまったく言及していない。それどころか、所々でコミュニティを何の断わりもなく「地域社会」と表現してさえいる。「コミュニティ」という言葉を安易に使っているのでは、と批判されても仕方ないかもしれない。この点については反論の余地もない。

それでも、弁解を許していただくなれば、そうしたのは、拙著の重点がイギリスの社会的企業がどのようなプロセスを経て、そしてどのようにして「コミュニティの再生」と「雇用の創出」に取り組んできたのか、また現に取り組んでいるのか、を实態調査に基づいて明らかにしようとしたところに置かれていたので、「コミュニティの再生」(community regeneration)の試みについて各々の現場で受けた説明に沿って「コミュニティ」を理解したことが第一の理由である、ということである。言い換えれば、「コミュニティの再生」に取り組んでいる人たちの「コミュニティ・アイデンティティ」をそのまま受け入れたのである。第二の理由は、私はかつて「コミュニティ福祉」に触れながら「コミュニティ」について論及したことがあり(『ロバート・オウエン協会年報24』、1999年)、そのなかで、「コミュニティとは何か」と問われても、実は、これこそ「コミュニティの真理である」と明確に答えられ得る定義はないのであると述べておいたが、このことが依然として頭の片隅に残っていて、「コミュニティ論」は次の機会にとの思いを強くしてしまったことである。しかし、それは私のいわば「内なる理由」であるので、白井先生のような客観的な批判的意見が示されるのは当然である。

そこで私としては、「コミュニティ」について何も勉強しないの

では白井先生のご意見に答えられないだけでなく、日本における「コミュニティの再生」の試みの実態調査にも同じような問題を残すことになるだろうと思い、「コミュニティ論」に触れてみることにした。しかしながら、ほんの少し勉強の歩みを進めたところで、これが難解であることに気づいたのである。コミュニティの歴史と思想、「コミュニティと社会」(community and society)、政治的コミュニティ、シチズンシップ、多文化主義、ヴァーチャル・コミュニティ、ポストモダン、古典的社会学のコミュニティ論、有名なテンニエスの「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」、それに「コミュニティの理念」(the idea of community)等々について勉強しなければならなくなったからである。

現在、私の「コミュニティ論」の勉強は緒についたばかりであるが、それでもピーター・ハミルトン教授(イギリス・オープン・ユニバーシティ)の次の言葉は私を大いに励ましてくれるものである。

ますます度を増してくる現代社会の個人主義(individualism)は、ますます不安定になっていく世界での安全と帰属意識の源泉として、また近年では、政治の基部たる国家のオルターナティブとして、コミュニティの理念の止め処ないノスタルジアを随伴させている。コミュニティは、消え失せるどころか、グローバリゼーションと個人主義とによって甦っているのである。

私もそうであるが、おそらく他の人たちも、「コミュニティ」を論究しようとする場合、何よりもまず「コミュニティの理念」を知ろうとするだろう。著名なコミュニティ研究者のジェラード・デランティ教授(リヴァプール大学)は、「コミュニティの理念 それは、おそらく、コミュニティの尽きることのない魅力を説明するだろう は現代的なものの不確かな条件の下での帰属意識の探究と関係している。今日、コミュニティに寄せる人びとの思いは、グローバリゼーションによって悪化させられると同時に促進される連帯と帰属意識における危機への反応だとみなされてよい」と述べている。この視点は重要である。現代の「コミュニティ(論)」研究は、グローバリゼーションとそれによる人びとの不安と危機という背景をしっかりと認識しなければならないだろう。今やコミュニティを研究することは地方と世界と既存の秩序とを研究することであるからだ。この研究を通して私たちは「社会的紐帯の分裂と発展」を学び、「新しいコミュニティの誕生」を展望するのである。